

## I' m here. ここに居るよ！

7月1日、大的場にある市民プールがリニューアル・オープンします。改修工事に併せて全面的にアートを導入し、夢のある芸術性あふれる快適な施設として生まれ変わります。

テーマは、「I' m here. ここに居るよ！」。デザインを担当したのは、瀬戸内国際芸術祭において、男木島で「雨の路地」というシュールな作品を制作した谷山恭子さん。「今、自分がどこに居るのか、海岸沿いの平たい景色のプールは、自分と地球の関係を感じるのに適している場所と考え、地球と自分の繋がりや自分の存在を感じる仕掛けになっている」とのことです。

プールと聞くと思い出すのは、小学校時代の水泳特訓の日々です。選手に選ばれた私は、夏休みに入る少し前から大会までの一ヶ月ほど、太陽がキラキラ照りつける中、毎朝学校のプールでひたすら泳いでいました。施設は今ほど良くはなく、プールサイドは砂のざらざらした感触が残り、足の裏が熱くてたまらず、否応なく早歩きをしなければならないような状態でした。でも、特訓が終わった後飲ませてもらった、やかんに入った温かい飴湯の美味しさは格別でした。

当時、泳いだ後に入った水を蒸発させて抜こうと、寝転がってプールサイドの床に耳を当ててじっとすることが好きでした。その時なぜか、地球の奥の広大な世界の不思議な音を聞いているような気分になったものです。今回の市民プールのリニューアルコンセプトを聞いた時、小学生の私は、まさにプールサイドで「ここに居るよ！」と地球と話そうとしていたのかもしれない、と思えてきました。プールは、少年をそんな気にもさせる場所です。

高松市民プールは、昭和53年にオープンして以来、のんびり泳げるレジャープールとして、幼児から大人まで幅広く親しまれてきました。今回のリニューアルを機に、さらに多くの人々に愛されるプールとなることを願っています。特に、世界と繋がる海と一体化した美しいプールで、子どもたちが「I' m here. ここに居るよ！」と笑顔で手を振っている、そんなイメージが定着するプールになってほしいと願っています。